



『であい、ふれあい、そして未来へ』～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

＜ユニバーサルデザイン (UD) って＞←9月24日(木)

「ユニバーサルデザインってなんだろう??」をテーマに

3・4年生の子どもたちが、ユニバーサルデザインについて学習しました。ユニバーサルデザイン(以下UD)という言葉は最近よく耳にしますが、どういう意味で日常生活のどのような場面で使われているのか等を中心に実物や体験を交えて学習しました。当日は、UDアドバイザーの井上さん、伊藤さん、宮村さん、笠井さんをお招きして、子どもたちにわかりやすく説明していただき、子どもたちは身近にあるよく使う物の中にもUDがあることに驚いていました。みんなが住みやすい環境下になるためにどうすれば良いか考える有意義な時間となりました。



＝一口メモ＝ UDって??

UDとは、「ユニバーサル」＝「普遍的な、全体の」という言葉が示しているように、「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障がいの有無、体格、性別、国籍などにかかわらず、できるだけ多くの人にわかりやすく、最初からできるだけ多くの人々が利用可能であるようにデザインすることです。この考え方は、1980年代にノースカロライナ州立大学(USA)で建築や物のデザインを研究していたラルド・メイ教授によって明確にされました。自身も障がいをもつ彼は、「障がい者など特別な人のための対応」と考えるバリアフリーに違和感を持ち、気持ちの上でのバリアを生み出さないデザイン手法を研究していたと言われています。

【UDの7つの原則】

UDは「できるだけ多くの人々が利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすること」です。この考え方をもっと解りやすくするために7つの原則を作りました。

1. 誰でも使えて手にいれることができる (公平性)
2. 柔軟に使用できる (自由度)
3. 使い方が簡単にわかる (単純性)
4. 使う人に必要な情報が簡単に伝わる (わかりやすさ)
5. 間違えても重大な結果にならない (安全性)
6. 少ない力で効率的に、楽に使える (省体力)
7. 使うときに適当な広さがある (スペースの確保)



UDの7つの原則すべてに、当てはまるものを作りあげるのはとても難しいことですが、少しずつできることから着手し努力していくその積み重ねが、思いやりのあるまちづくりに繋がっていくと思います。

＝UDとバリアフリーの違い＝

ひとつの例で考えてみると、たとえば建物玄関前の段差について注目します。玄関前にある段差にスロープを付けるのはバリアフリーの考え方です。一方、UDでは、設計時点からスロープを計画し作りあげる事となります。しかし、どうでしょう。完成した入口は全く同じ形状なのです。これが混同しやすい理由なのかもしれません。

＜令和3年度入学児童 就学時健康診断&6年修学旅行前健康診断＞←9月25日(金)

来年度、入学する子どもたちの就学時健康診断が行われました。現在6名（男子3名・女子3名）の子どもたちが入学してくる予定です。子どもたちは、耳鼻科・歯科・内科・聴力検査・視力・集団（個人）検査と併行して、お家の方には学校から入学に際して準備物等の説明、市教育委員会から入学に際して家庭での役割の説明を行いました。半年後にはピカピカの1年生になります。6名の友だちが元気に登校してくれることを職員一同、楽しみに心待ちにしています。



入学式は
4月7日(水)午前

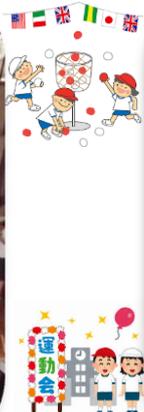


＜運動会の練習が始まりました＞←9月25日(金)

10月8日(木)予備日9日(金)に予定している運動会の練習が始まりました。第1回目はあいにくの雨模様となりましたが、三密に留意して体育館で玉入れと綱引きの入退場等の練習をしました。今日からほぼ1時間/日の練習をして本番をむかえます。明星第25号でもお知らせしましたが、見学をされる場合は三密に留意いただき、咳エチケット（マスク着用）で見学をお願いします。なお、保護者席、駐車場は設けませんのでご理解ください。



玉入れの配置



綱引きの説明